

とがち帯広FC

静岡市長杯

第43回清水チャンピオンズカップ報告書

大会結果

☆予選リーグ

- 第1試合 とがち帯広FC 4-3 島田トレセン（静岡県）
- 第2試合 とがち帯広FC 2-0 射水トレセン（富山県）
- 第3試合 とがち帯広FC 3-1 JACPA 東京FC（東京都）

3勝で決勝トーナメントへ

☆決勝トーナメント

- 第1回戦 とがち帯広FC 2-0 SALFUS oRs（静岡県）
- 準決勝 とがち帯広FC 0-2 中西部トレセン（静岡県）
- 3位決定戦 とがち帯広FC 2-2（PK4-3） 新座片山FC（埼玉県）

参加32チーム中 第3位

2015. 12. 24~26

清水ナショナルトレーニングセンター他

報告者 十勝少年サッカー連盟技術委員長 喜多 進

「チーム十勝」がつかんだ2年連続の好成績！

十勝少年サッカー連盟技術委員長 喜多 進

この清水チャンピオンズカップは、全国各地の大会で優秀な成績を収めたチームが、サッカーどころの清水に集い、その年の真のチャンピオンを目指す大会として定着している名誉と権威のある大会です。我々「とちかち帯広FC」は、大会実行委員会の推薦も含めて今回で13年連続の出場となりました。

十勝トレセンU12のメンバーは、11月下旬まで屋外でのトレーニングに取り組んできましたが、その後は室内でのトレーニングとなり、広いピッチでのフィジカル面やコンタクトプレー、試合運びなど、不安と期待が入り混じる中での大会参加となりました。

さて、大会の結果ですが、昨年度は、トレセンの前身である選抜チームとしての活動を始めてから30年の時を経て、十勝の子どもたちが全国制覇という快挙を成し遂げ、歓喜に沸いたわけですが、今年度も全国第3位という素晴らしい成績を残してくれました。

今回の大会に参加した選手16名のがんばりはもちろんですが、十勝の少年サッカーの仲間たち、たくさんのOB選手、各チームで熱心にご指導いただいている指導者の皆さんのお力、十勝地区サッカー協会、十勝少年サッカー連盟のご支援、まさに「チーム十勝」「オール十勝」の勝利だと思っています。

約1か月屋外でのトレーニングから遠ざかっていたわけですが、そのハンデを乗り越え、広いグラウンドでサッカーができるという喜びを、高いモチベーションに変えてくれた選手たちのたくましさを誇りに思います。

ここ数年感じていることは、十勝の子どもたちの「個の力」が全国でも十分に通用していることです。我々十勝トレセンが、課題として取り組んできた個の育成が、各チームでの指導の充実もあり、徐々に成果となって表れてきたものと思います。

近そうで遠かった全国のトップレベル。まだまだ追いついたとは思っていません。この成績に満足することなく、おごることなく、十勝の子どもたちと、十勝の指導者の皆さんと共に新たな一歩を踏み出していきたいと思っています。

なお、今年の大会も、地元船越サッカー少年団、駒越少年団、旅館日本閣さんはじめ、多くの関係者の方々にたいへんあたたかい歓迎を受け、充実した遠征となりました。

少年トレセンの最終段階として、この時期に全国の強豪チームと多くの試合ができるこの大会は、我々にとって本当に大きな財産となっています。ここで得た経験、熱い思いを選手、スタッフ忘れることなく、次のステップに活かしてほしいと願っています。

終わりになりましたが、この遠征に際しまして、十勝地区サッカー協会ははじめ、十勝少年サッカー連盟、各単位少年団関係者の皆様方、そして保護者の皆様には、多大なご支援とご協力をいただき心より感謝申し上げます。今後とも、十勝地区のレベルが高まるようスタッフ一同努力いたしますので、今まで以上のご指導、ご協力をお願いいたします。

簡単ではありますが、イレブンの健闘ぶりをまとめましたのでお読みください。

12月24日（金）

☆予選リーグ第1試合 とちぎ帯広FC 4-3 島田トレセン（静岡県）

ベンチからは、「大胆に」「ミスはOK!」の声がかかる。前日に船越少年団のご尽力で練習試合をしたものの、徐々に緊張感ある中での試合ということで、やや動きも硬く島田ペースで試合が進む。何度か訪れたコーナーキックのピンチは1番を中心に守る。12分相手DFが跳ね返したボールを拾った11番が、GKとの1対1を落ち着いてかわし先制点を決める。続く15分には、14番のコーナーキックを7番がヘッドで合わせ追加点を奪う。6番も広い視野でボールをさばきチャンスを作る。が19分、不用意なプレーからFKを与える。一度は1番がピンチを救うもこぼれ球を決められる。

後半4分、コーナーキックから頭で決められ2-2となる。13分、右サイドの7番から縦のスペースに出たパスを受けた11番が、相手DFをかわしGKの頭越しに技ありのシュートを決める。16分に再び追いつかれるものの、20分、こぼれ球を拾った11番が右足を思い切りよく振り抜き、相手GKの手をはじいて決勝のゴールを決める。強豪相手に4-3で競り勝つ。この1勝が大きな自信となる。

☆予選リーグ第2試合 とちぎ帯広FC 2-0 射水トレセン（富山県）

とちぎはGKをはじめ初戦とメンバーを数名入れ替える。そのフレッシュな選手たちを中心に、アグレッシブにボールを奪いに行く。試合の立ち上がりから主導権を握るとちぎは相手ゴールに迫るが、シュートがバーに嫌われるなどゴールが遠い。ボールを運ぶ場面はいいのだが、最後の精度やタイミングが悪い。11分、13番からパスを受けた11番が、抜群のボールコントロールで相手GKをかわしゴールを決める。サイドDFの5番もスピードのある相手FWにもしっかりと対応し、ピンチを防いだ。

後半6分、8番がドリブル突破からシュートを決め2-0とする。相手チームは、体の大きな10番をトップに上げるが、とちぎは12番を中心にスペースと時間を与えない。9番も賢いポジション取りでピンチを防ぐ。リーグ戦の得失点差のことを考えると追加点の欲しかったとちぎであったが、徐々に運動量も落ちゴールを奪うことができなかった。

この日の最高気温は20℃近くまで上がったわけだが、選手は最後まで集中し、まずは2勝と幸先の良いスタートを切った。

12月25日（土）

☆1次リーグ第3試合 とちぎ帯広FC 3-1 JACPA 東京FC（東京都）

この試合、引き分け以上で1位突破が決まるわけだが、逆に2点差で負けると3位になる大事な1戦となった。JACPA 東京FCもわずかながら1位になる可能性も残っているため、試合序盤から激しくとちぎゴールに迫ってきた。相手チームの速いボール回しに、なかなかチャンスが作れない。ボールを奪っても周りの選手の関わりが遅く孤立してしまう。12分、FKから頭で合わせられ先取点を奪われる。なかなか攻め手のなかったとちぎであったが、16分、コーナーキックのこぼれ球を11番が押し込み同点に追いつく。

同点としたとかちは、後半に入ると徐々に動きが良くなる。14番、3番のシュートで相手ゴールに迫る。押し気味で試合を進めるとかちは、13分、13番が相手DFの裏にボールをだす。タイミングよく抜け出した11番がシュート。これが相手GKに当たったもののゴールに吸い込まれ逆転する。続く14分、7番がFKを直接決め3-1とする。途中交代でトップに入った10番も前からプレッシャーをかけ続ける。

予選リーグ3勝。決勝トーナメント進出を決める。

☆決勝トーナメント1回戦 とかち帯広FC 2-0 SALFUS oRs (静岡県)

相手のSALFASは、昨年も対戦した好チームである。一人一人の技術が高くショートパスを多用し、1タッチ、2タッチでボールを細かくつないでくる。試合の立ち上がりは相手にボールを回され苦しい時間帯が続く。相手のボール回しに慣れてきたとかちは徐々にチャンスを作り出す。12分、一瞬のすきを突き7番がミドルシュート。これがGKの頭上を越えきれいにゴールに吸い込まれる。15分、ゴール前でフリーになっていた相手選手に強烈なシュートを打たれるも20番がしっかりとキャッチする。

後半に入り、運動量が落ちないか心配であったが、相手ボールになると前線からしっかりと追いかけて、コンパクトな守備を心がける。相手の10番はスピードもあり、ドリブルで崩される場面もあったがチーム一丸となり、身体を張ったプレーでピンチを防ぐ。17分には4番の惜しいシュートもあったが、相手GKの好守備に阻まれる。19分、4番→7番→11番とボールをつなぎ追加点を奪う。2-0の勝利。2年連続ベスト4。

12月26日(日)

☆決勝トーナメント準決勝 とかち帯広FC 0-2 中西部トレセン (静岡県)

準決勝の相手は、地元静岡の中西部トレセン。大型選手が揃う攻撃型のチームだ。

試合開始早々押し込まれコーナーキックのピンチ。これは1番がしっかりと守る。これまで豊富な運動量を武器に、強豪チームに挑んできたとかちだが、この日は連戦の疲れから動きが重い。10分、左サイドを突破され、センターリングを合わされ先制点を許す。その後も2列目からのタイミングの良い飛び出しに苦しむ。とかちは、ボールを奪った後も関わる選手の距離が遠いため、連続した攻撃ができない。また、球離れも遅くなかなか相手ゴールに迫ることができない。

後半に入っても、ボールを回され苦しい時間帯が続く。4分、左サイドを突破される。アプローチが遅れ2点目を失う。6分、中盤でためを作った11番から、タイミング良く飛び出した7番へ絶妙なパスが出るが、惜しくもオフサイドとなる。13分、ゴール前でボールを失い、GKと1対1のピンチを迎えるが、1番が足で反応し追加点を許さない。15分、縦1本のパスで裏を取られるが、15番がしっかりと体を寄せシュートブロックする。勝負をあきらめないとかちは、最後まで相手ゴールに迫るものの、決定機を作ることができず0-2で敗れる。試合の入りか悔やまれる1戦となった。

さあ、切り替えて3位決定戦だ。全国のトップ4、失うものは何もない。

☆決勝トーナメント3位決定戦

とちぎ帯広FC 2-2 (PK4-3) 新座片山FC (埼玉県)

3位決定戦は、新座片山との対戦になった。夏の全国草サッカー（参加256チーム）で頂点に立ち、全日本少年サッカー大会で優勝したレジスタに埼玉県予選の決勝で敗れた強豪チームだ。特に、2トップのゴールに向かう姿勢がすばらしく、球際も空中戦も強い。厳しい試合になることが予想された。

準決勝よりは動きが良かったとちぎだが、5分、警戒していたトップの選手に中央突破を許し先制点を奪われる。その後とちぎは、7番のシュートなどでリズムを作る。8分、3番→8番とつなぎ、8番が相手DFに囲まれたものの個人技で突破し同点シュートを決める。同点に追いついたことで、余裕が出てきたとちぎは、その後もパスをつなぎチャンスを作る。11分、7番→8番とつなぎ、最後はフリーになっていた4番が素晴らしいミドルシュートが決め逆転する。15分、コーナーキックからヘッドで同点に追いつかれる。この大会、6試合で失点は8であったが、そのうち4失点がセットプレーからということで、広いピッチから遠ざかっていたものの今後の課題となった。

後半に入っても両チームの特徴が出た好ゲームとなった。新座は、前半以上に「前へ」の意識をもち、とちぎゴールに迫ってきた。それに対しとちぎは、恐れることなくしっかりと身体を寄せ、チームとしての守備でしのぐ。攻撃でも、2番の正確なクロスボールや5番の突破などでチャンスをうかがうが、勝負の行方はPK戦となる。

PK戦では、5人目までもつれたものの4-3で勝利し、全国3位をつかみ取る。

ここ数年、多くの関係者の方々のご尽力で、全国のトップレベルのチームと交流できるチャンスをいただいている。この時期に良い経験ができることは、十勝地区の子どもたちにとっては何よりの財産となる。

今年度からこの大会も、11人制から8人制となった。狭いピッチの中で、より高い技術力と判断力が求められる。特に、判断が遅れると一瞬にして囲まれボールを失うことになる。普段から判断力を養うためのトレーニングの工夫が必要となる。

また、ゴールキーパーの関わりもこれまで以上に重要になる。ただゴールマウスを守るだけではなく、8人目のフィールドプレーヤーとしての意識をいかに高めていくかも今後の課題となる。

最後になるが、2年連続の好成績に満足することなく、日頃のトレーニング方法を更に工夫、改善していけば、今後も全国の強豪チームと互角以上の試合ができるはずである。そして、トレセン活動の大きなねらいが「個の育成」であることを忘れずに、各チームの指導者の皆さんと共に十勝地区全体の底上げ図っていきたい。

参加した選手の皆さん、スタッフの皆さんご苦労さまでした。

文責 喜多

選手16名へのコメント ○成果 ●課題

- 1番 ○パワフルなセービングでチームのピンチを何度も救った。ハイボールにも強い。
●シュートコースを見極め、もっと足を運ぶこと。守備へのコーチング
- 2番 ○落ち着いたボールキープは、チームの攻撃リズムを作った。
●ハードワークし続けること。ボールをもらう前の準備と判断の速さ。
- 3番 ○スピードのあるオーバーラップは魅力的。左足からの強シュートも脅威。
●常に集中力を保つこと。セットプレーでのポジショニング。
- 4番 ○味方選手との連携プレー。3位決定戦での強烈なミドルシュートは印象的。
●常に選択肢のあるプレーをすること。ハードワークし続けること。
- 5番 ○スピードのある相手FWに対する対応は素晴らしく、何度も攻撃の芽を摘んだ。
●積極的な攻撃参加。相手選手との駆け引きのあるプレー。
- 6番 ○中盤でのボールキープ力は十分通用した。味方と連携したポジショニング。
●攻撃の優先順位を意識したプレー。味方選手とのコミュニケーション。
- 7番 ○ハイプレッシャーでのボールキープ力は魅力。常にゴールを目指す姿勢。
●味方選手との連携プレー。相手選手と駆け引きしながらのディフェンス。
- 8番 ○キャプテンシーを発揮し、チームを盛り上げた。柔らかいボールタッチ。
●攻撃の優先順位を意識したボールをもらう前の準備。シュートスキル。
- 9番 ○的確なポジションからのディフェンスは素晴らしかった。積極的な攻撃参加。
●スピードのある相手選手への対応。味方選手とのコミュニケーション。
- 10番 ○献身的な前線からのディフェンスはチームに活気を与えた。攻撃のアイデア。
●オフのときの良い準備からの速い判断。相手選手との駆け引きのあるプレー。
- 11番 ○スピードと突破力は十分全国クラス。高いシュートスキルで得点を量産した。
●守備への関わり。(プレスバック)優先順位を意識した積極的なしかけ。
- 12番 ○的確なポジショニングからの守備は何度もチームのピンチを救った。
●味方選手へのコーチング。セットプレーでのマークのしかた。
- 13番 ○緊迫した場面でも落ち着いて味方選手と関わり、チャンスを作った。
●ボールをもっと大事にすること。マークの原則を意識した粘り強いディフェンス。
- 14番 ○豊富な運動量でチームに活気を与えた。テクニックは全国でも十分に通用した。
●味方選手と連携したポジショニングをとること。相手選手との駆け引きとしかけ。
- 15番 ○右サイドを駆け上がる積極的な攻撃参加は素晴らしかった。
●背後を意識した的確なポジショニング。粘り強いディフェンス。
- 16番 ○ゴールを守る意識が高く、何度もファインセーブを見せた。
●ゴールキックを含む正確なボールフィード。セットプレーでのコーチング。

文責 竹本